



1997.6.14 発行

郵便振替 02710-3-570 あごら札幌

No. 211	あごら札幌 連絡先	今月通信担当
	細田 (011) 644-2927	細田英理子

《 今 月 の 内 容 》

「戦士の刻印」 トーキングタイムに 参加して思ったこと	-----1,2,3	元海兵隊員アレン・ネンソンさん 来日 日常のなかの暴力・差別を 見つめることから 反戦運動を	-----6,7
アダルト・チルドレン としての私	-----4,5	情 報	-----8

通信購読料 1,200円 (年間)

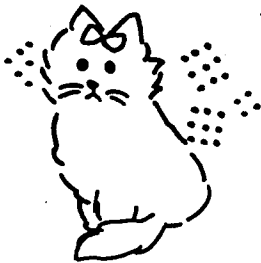
「戦士の刻印」トーキングタイムに 参加して思ったこと

奥村さと子

「戦士の刻印」2回目と3回目の間のトーキングタイムでは、満席の参加者の中から様々印象に残る発言が続きました。テープ起こしをした中から2つ、できるだけそのまま再現し、考えるヒントにしてみたいと思います。

「えーと40代前半の主婦です。性器切除のことは26・7位の時に何かで知りまして、でもそれっきりとか心の片隅にありながらいつも誰とも話せずに自分自身の事で追われて10何年過ぎました。私は今あの、自立とか何とかいうことは分かりません。私自身が肉体的に性器切除されてませんが、生まれた時からだと思えますけど常に、『男の子だったら良かったのにね。女の子だからネ。女のくせにネ。どうして男の子に生まれなかったのかしらネ。女の子で残念ネ。』そういうものを小さいときからずーっと言われ続けてきました。

でそこらいろいろな生き難さを持ってきてずっと生きてきて20代30代、で結果的に今自分の存在が、子どもを生む器械であり、今は子どもを育てる器械でしかない自分の立場、というものに置かれています。でこれって、それだからFGM(性器切除)っていうか、これもあの、女はほんとにあの場合っていうのは、子どもを生むだけの道具、男の快楽を処理する為の道具であり、であの月経という血を流す為の穴だけ残す。その為つまり子どもだけを生んで育てるためのあの、道具というか機械にだけされているという状況。そこの処がすごく、25



・26才の時にもあの、そのつらさってというかそこは凄く感じました。今ここでこういう機会に恵まれて見る事ができて、今自分が置かれている、そういう自分の女ってというか、女を否定しない、只道具であり機械であるという自分の立場という所から、どうやって女として生きていこうかという所に直面してまして、そういう処でこういう問題にもかかわっていったらなと思っております・・・。」胸にこみ上げてくるものを押し込める様な、あるいは絞り出すような話し方に、期せずして共感の拍手が湧き、「ありがとうございました」と言って彼女は座った。私も思わず目頭が熱くなるのを感じながら、この話を引き出せただけでもこの上映会は成功したと思いました。



この発言の2人位前に、もう少し若いと思われる女性の発言がありました。引用して考えるヒントにしたいと思います。

「あのーたまたま東京でポスターをみて喜んで来たんですけど。あのさっきアンケートを書いている、性器切除というのはアフリカの事なんだけど日本であつたものは何だろうと考えたんですね。それでえーと思ったんですけど、日本ではネ、実際に性器とか切除されてませんけれど、あの男女共に特に男性のサラリーマンはそうなんじゃないかなと思うんですけど、文化的というか日常的にね去勢されてるんじゃないかなと私は思うんですね。特に若い男性の方がこの映画を見てどういう風を感じたのかということ率直に話してほしいなと思うんですけど。んー最近あの『失樂園』とかいう映画が凄く宣伝されてて又ブームになってるみたいですけど、んーあれは渡辺惇一という作家が書いて日経新聞に連載されたんだそうですね。ア、ナルホドと思ったんですね。その、結婚している男と女が互いに好きになって心中するという筋立てらしいんですけど、そういう話があつた、おとぎ話になると。その日経新聞を読んでもようなモーレツに働いているサラリーマン達にとってはこれがおとぎ話なんだろうなというふうにしたもんですから。んー日本では性器切除って実際にはされてないけど男女共にエネルギーを他の所に取りられていて、で実質的にあの、セックスレス夫婦も増えてるとか言われてるし、そういう処で去勢されてるんじゃないか、それが問題なんじゃないかなと私は思います」

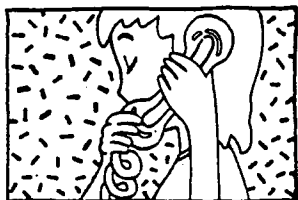
この発言の中に去勢・おとぎ話・セックスレスという言葉が出てきますが、発言を要約すると次の様な事だと思えます。

「日本では文化的日常的に去勢されているんじゃないか。男女共にエネルギーを他の所に取りられてセッ



クスレス夫婦が増えている。だから今モーレツに働かされてるサラリーマンにとって失樂園という小説がおとぎ話になっている」——と。

先に引用した40代の主婦の方が、男ではない者として位置づけられ、性の自発性・主体性を奪われる去勢を、自らの痛みとして痛切に語ったのとは対照的に、彼女の言う「去勢」は他人事のように話されているせいか何を言いたいのが伝わってきません。



彼女は多分去勢という言葉で、エロスの関係を窒息させるような性の状況、性愛の不毛について話そうとしたのでしょう。その意味では先の主婦の方と全く違うことを話したかった訳ではないと思われます。しかし彼女は、男性の性の不毛に同情する前に、女性性器切除的去勢についてももっとちゃんと話すべきではないでしょうか。

商品化された性を押しつけられ、効率良く仕事にエネルギーを集中するように仕向けられる男性の去勢の不幸が、男の下で自発性を封じ込めたまま、己れの性について主張する言葉を獲得してしない女の去勢の不幸を上まわるなどとはいえないはずだと思うのです。

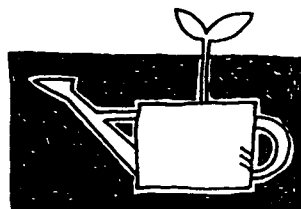
彼女の話の中のもうひとつの言葉、セックスレス夫婦は、真のエロスの関係への過渡期と考えれば何も困った事ではないと私は考えます。性愛の形は会話やちよつとした触れあいの中にもあるのだから……。

それよりも気味が悪いのは「性に徹底的にこだわる2人を書いてみようと思った」と作者が語っている『失樂園』です。

あれは一部の男にとってはそうなのかも知れませんが、少なくとも女にとってのメルヘンなんかではない。渡辺惇一の本は相も変わらず、女を開発するだの征服するだのという描写が続いて辟易させられる。(だから立ち読みしかしません)あれはポルノ本です。良く出きたエロ本以上のものではありません。

発言者の話の中から去勢・セックスレス・おとぎ話という言葉拾い出して検証してみましたが、こうしてひとつひとつ考えると、特におとぎ話という言葉で表現されている彼女の思考が、男の価値観を内面化したものである事に気づかされます。彼女はまだ自分の性のリアリティについて話す事に馴れていないのでしょう。

しかし彼女に限らず私達は、長い間切除されてきたものについて、まだ充分話尽くしていないのではないのでしょうか。



母は完璧な共依存のバタードウーマンであったと確信している。ACは機能不全家族の間で育ったことにより、さまざまな傷を負っているため、様々な生き難さを抱えているといわれる。小学校の高学年ともなるとどうも何の問題も無いよその家庭とは違うことがわかってきたが、自分がかかわらないようにしていれば目隠しをして過ごした。もっと暖かい家に生まれてきたかったと思うし、この年になっても、家庭や家族を誇れる人がうらやましい。人と人との距離感がつかめず、相手が挨拶をかえしてくれないといやだからなかなか自分から頭が下げられず、自己評価が揺れ動き、見捨てられ不安が強く、見たくないものを認識せず(否認)、摂食障害(拒食はなく過食のみ)ともいえる食物嗜癖を抱える私は人間関係が苦手で、“自分は受け入れても他人からは受け入れられない”という抜き難い意識があり、なおかつしばしば他人の感情に鈍感である。自分がしてもらってうれしいと思うこと(例えば率直な感想を述べることを人にしてあげて戸惑われたり、嫌われたり、常識だと思っていたこと(例えば対等な男女関係)を前面に出しひんしゅくを買ったり、あなたは常識がない人だと言われたりした。日本では皆似たような意識や価値基準をもち、これがいわゆる“普通”だと思われるようだが、それは育って行く過程で、家庭、学校、職場等で察しつつ身につけていくものである。父親不在に近かった私の家庭では男性による抑圧や強制は殆どなく、いやなものは見もせず、参加もせず好き勝手に生きてきたので、当然身につけていると見なされる世間一般の常識や一定のルールに疎かった。それが生き難さに拍車をかけてきたのではないかと考える。別にすべてを両親や家庭のせいにしたわけではないし、過去は変えようがない。しかし自らをACと認識することでバランスの悪さ(過剰と希薄あるいは欠落)をおぎない、混沌とした過去に少し道筋をつけることができたような気がする。斎藤先生の講演の中で、10年ぶりに生まれた7歳のわが子を殺した母に対し、「まわりの人みんなが子供のことをかわいいかわいいと言っていたけれど彼女は自分のことをかわいいと言って欲しかったんですよ」という部分で、全然文脈は違うけれど「ああ私も父や母からかわいいと言ってもらいたかったけれどそのメッセージを受け取れなかったから悲しいのだなあ」と思って涙が出てしまった。この感覚をすべての人にわかってもらうのは難しいだろうが、今でも涙があふれてくる。

ひるがえって、わが子に「かわいい、いとしい、あなたは私にとってかけがえない大切な人だ」というメッセージを送っているだろうか考えると心もとない。私が親と自分の関係に涙するように彼女たちも親を恨みながら涙しているのかもしれない。少子化に伴い、『わが子命』という親や祖父母は以前にもまして増えているのに、『私が一番大事』という本音で生き、自分のことしか考えないできた勝手な親のもとで寂しい思いを重ねているのだろうと反省し、今月は札幌の娘のところへ1泊することにした。愛して欲しいのに甘えべたで甘えられべたのよく似た親子だからうまくいかないかもしれないけれど・・・。



日常のなかの暴力・差別を見つめることから反戦運動を

谷 百合子

沖縄の駐留米軍兵士による少女レイプ事件をきっかけに、昨年二月、アメリカで「沖縄駐留米軍を米国に連れ戻すネットワーク」がうまれた。呼びかけ人の一人、アレン・ネルソンさんは、かつて海兵隊員としてベトナム戦争に従軍、沖縄に駐留した経験を持つ。除隊後、貧しさから抜け出すために軍隊を目指す子供たちに従軍体験を語り、戦争という暴力に加担しないように呼びかけている。

「私は若い人々に詫びるために、そして私がベトナムで殺したたくさんの人々の死を無駄にしないために、ここにきました。」——アレンさんのこの言葉が、重厚な響きを持って、私の耳の底で鳴っている。

4/17～5/6までの三週間、かなりのハードスケジュールで全国ツアーをこなし、北海道も札幌、矢野別、釧路と一週間講演し、私も同行させて頂いた。アレンさんから学んだことはたくさんあってとてもここでは書き尽くせない。アレンさんは人間的にも暖かく思慮深い人で、戦士だったなどとは想像できなかった。そして、アメリカから抱えてきたギターでブルースを奏で、私たちを酔わせてくれた。ギターは夜「自分を癒すために」持って歩くと話していた。

〈講演から〉

アメリカでは経済的な貧しさは教育の貧しさにつながる。金持ちの子供は大学へ行き、職業を選択し、戦場に行く必要はない。貧困と暴力の中におかれている子供たちは、食・住・医療を求めて軍隊に入る。学校にも行けるし、資格も取れる。私は今、青少年に、軍隊とはどういうところか本当のことを伝える仕事をしている。政府は多くの若者が入隊を望むような軍隊教育プログラムを公立学校で進めている。このプログラムを受け入れるか入れないかは学校の判断に委ねられてはいるが、軍隊がカッコいいところだと子どもたちが思うような内容になっている。まずは軍隊側に立ったアメリカの歴史が語られる。ちいさな児童たちはユニフォームを着せてもらったり、キャンプやセーリングに連れて行ってもらったりする。貧しい家庭の子どもたち、特に片親の家庭の子どもたちにとってはこうしたことは大変魅力的なのだ。そして少し大きい子には、大学に行くための奨学金が出るとか、将校になれるといったことを誘いの手段にしている。

いずれにしろこのプログラムの影響で、本気で入隊を考える子どもたちが生まれていることは確かだ。私が「君は本当に人が殺せる？」と質問して、映画とは違う本当の戦争の話をする子どもたちは入隊をとどまる。私は入隊をとどまった子どもたちが、将来経済的に自立できるような教育システムの樹立と拡充をめざして運動している。もう戦争を支えない。税金を戦争準備に使わせない。そのお金をすべての子どもたちが十分な教育を受けるために使わせたいと考えている。 5月6日 横浜集會（文責 山中悦子さん）

私が自分の体験を青少年に語り始めたのは、人を殺したのは自分だということを自分で認めることが出来た時からだった。戦争が悪い、政府が悪い、上官の命令だったから…ではなく自分でしたと認めたのだ。他人よりたくさんベトナム人を殺した優秀な兵士だったことが告訴されるのなら受け入れる。ベトナム人に許されなくても謝る。平和に反する文化に責任をとっていくのが私の役目になったのだ。

〈4/21 じょじょ（札幌手稲）講演での質問から〉

「湾岸戦争の時、女性兵士が参戦したことをどう思うか？」という質問があった。アレンさんは「それは女性の権利の問題である。政治の場にもあらゆるところに女性は出る権利があり、女性がプライドを持つことが大切である」と話していた。参戦についてはまだまだたくさん語りあわなければならないことがあると思うがアレンさんがこう主張するのはとてもわかる気がする。あごらのメンバー数人と話したのであるが「アレンさんは女性差別がよくわかっている人」だと思う。家庭でも家事の分担など公平にやっているようで、いいパートナーと暮らしている様子が窺えた。やっぱりいい男にはいい女が…

日本で平和運動をしている男たちはまだまだフェミニストたりえない。平和運動をしている男たちがあたりまえの風景としてある女性差別の状況をどう読み取れるか。レイプ神話、売春ツアー、従軍慰安婦問題もまだまだ人ごとに過ぎない男たち。日常生活の中の暴力に、女への暴力もある。

アレンさんの言葉から

兵士を最初から「敵とするのでなく彼らに人を殺す訓練をさせないことだ。殺すことも合法化し、そのために訓練をさせているのは政策決定者で、彼らこそが問題なのだ。

日本には食べられないような貧困はないかわり知れないから、教育や友人関係の貧しさはなたすると思う。その貧しさは思考の貧しさにつながって戦うことと仕事として選択する。

アレンさんを呼ぶ会を継続します

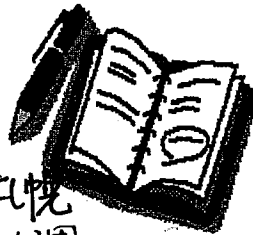
- ①アレンさんの目的のひとつ、沖縄から駐留米軍兵士をアメリカに連れ戻す運動の一翼を担っていく
- ②7/13（日）女性センターにて沖縄県事務所田里さんに、沖縄の歴史・文化を話してもらう。
- ③矢日別の米軍移転問題に取り組んでいく、などなど



アレンさんの愛が私たちをつないでくれるでしょう！
7/16～7/23までアメリカの高校生・大学生が来道します。



Information



6.29 第2回セクシャルマイリテイプライドマ-子札幌

ハロート出発集合地点 北6条西6丁目 エルムノ里公園

午前11時受付 12:00~14:00 ハロート

連絡先 Tel. FAX (011) 742-7719

主催

北海道セクシャル
マイリテイ協会
札幌ミーティング

7.5 「男性はなぜ暴力をふるうのか」 女性セク-音楽室

午後6:00~8:00

400円

連絡先 細田(644-2927) 主催 性教協いかりサークル

7.13 「琉球の歴史と文化、そしてここからのオキナワ」

沖縄県北海道事務所所長 田里正夫さん

地元の自立か
平和を創る

札幌市女性セク- 500円 1:30開場 2:00スタート

主催 アレン・ネルソンさんを呼ぶ会 谷(664-0632)

7.20(21) 第5回非核自治体「全国草の根交流大会」

非核自治体は世界を変える かてる2・7(北2西7)

20日 7ホ-ラム 13:00~16:30 「核と戦争のない21世紀を!」 231-4111

21日 ワ-クショップ 9:30~12:30 沖縄・矢野副. P.ジ. P.4カなど

2日 全体会 13:30~16:00 連絡先 219-1112(市ネット)

2日間
1500円

「戦士の哀れ印」の上映会、プレイガイドと当日券の売れ行きがすごかった。それだけ一般の人の関心が高かったのだと思う。まずは黒字になってホッ!(E子)

70坪ほどの畑を借りた。大根、人参、トマトにキ-11。じゃがいも、ズッキーニ、etc. 日曜日は弁当持参で、高原でラン干。札幌岳からの清流が、流石、広葉樹林が、風に歌う。かっこの声と雨音が、土にまみれて、帰りは金湯温泉につかって、あ〜、極楽、極楽〜(百合子)

男女雇用機会均等法の改正案が成立。努力義務が禁止規定になったのはよいが、失ったものも大きい。労働者は時間外の上限(時限)に法的根拠をえるらしいが、欧米並みはまず無理か?

(K)